

# 平成30年度通学区区域検討ワークショップまとめ

平成31年3月11日(月)

平成30年度第1回箕面市通学区区域審議会

# 平成30年度のワークショップ開催状況

---

# 平成30年度のワークショップ開催状況

平成30年度は、以下のとおり計5回ワークショップを開催しました。

## ■ 第2回ワークショップ ※第1回ワークショップは平成29年度に開催済

【日 時】平成30年7月19日(木)19時から 【参加人数】45人  
【テーマ】これまでの経過と通学区域見直しの考え方等について

## ■ 第3回ワークショップ

【日 時】平成30年8月2日(木)19時から 【参加人数】68人  
【テーマ】自分の住む校区の「良いところ」「気になるところ」

## ■ 第4回ワークショップ

【日 時】平成30年10月5日(金)19時から 【参加人数】52人  
【テーマ】校区を考える上で重視する視点

## ■ 第5回ワークショップ

【日 時】平成30年12月15日(土)10時から 【参加人数】41人  
【テーマ】新設校と隣接校の校区境界はどこがよいか  
また隣接校以外の校区を広げたり狭めるとすればどうするか

## ■ 第6回ワークショップ

【日 時】平成31年2月14日(木)19時から 【参加人数】43人  
【テーマ】第5回の各校区意見をあわせたときの課題

▼グループワークの様子。活発にご議論いただきました。



# 通学区域見直しの考え方

---

## ■ 校区調整の前提

- 1 船場地区に学校を新設することによって、学校数を純増させます(廃校はしません)
- 2 長期にわたって安定的な校区とすることをめざし、全市的な校区調整を行います
- 3 見直し後の校区への移行期間や経過措置を十分に設けます

## ■ 校区調整の手法

長期にわたって安定的な校区とするため、以下の考え方で校区調整を行います

①小学校から半径1km圏内を目安に校区を設定します

(通学の安全を確保するため)

②学校の大きさに合わせて児童数(校区の広さ)を調整することにより、

各校区の  $\frac{\text{学校敷地面積}}{\text{校区面積}}$  の値がより均等に近づくようにします

(各校区の人口変動に左右されず、かつ均等な教育環境を確保するため)

# 第3～4回ワークショップでのご意見

---

自分の住む校区の「良いところ」「気になるところ」を見つめ直すことで、  
校区を考える上で大切にしたいことを議論しました。

## 第3～4回ワークショップでのご意見

校区を考える上で大切にしたいこととして、以下のご意見をいただきました。

### ■ これまでの地域のつながりを大切にしたい

- 生活圏が分断されないような校区が良い
- 町や丁目単位で校区を区切れれば、客観的でわかりやすいし、地域活動もしやすい
- 祭りなどの行事を行っている地域を分断しないようにしてほしい
- 現状からの変化ができるだけ少ない方が良い

### ■ 学校に通う子どもたちのことを大切にしたい

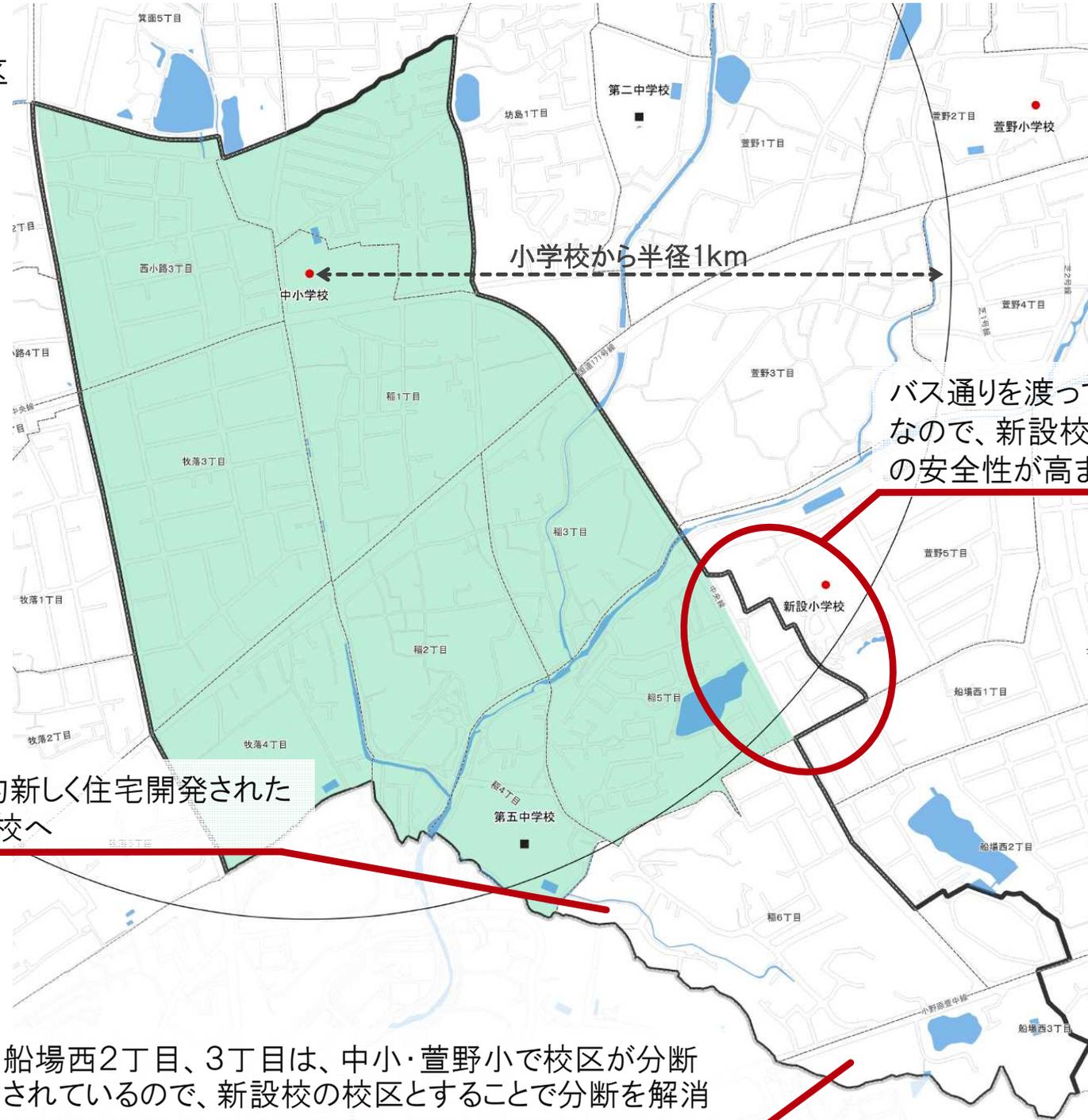
- 国道171号線や新御堂筋など大きな道路で校区を区切れれば、それらの道路を渡ることなく通学できて良い
- 校区の線引きを工夫することで通学の安全性を確保できるのが望ましいが、それが難しい場合、ハード面（歩道橋等）やソフト面（見守り等）でカバーすることが必要
- 学校が校区の端にあると、同じ学校に通う子どもたちの中で、通学距離の長短の差が生じてしまうので、学校はできるだけ校区の中心にある方が良い
- 船場地域の子どもたちの長距離通学の解消につながる校区割にすることが大前提で、新設校・中小学校・萱野小学校・萱野東小学校の校区が適切な広さ（通学距離）になるのが望ましい
- 子どもにとって学校は、生活時間の多くを過ごす場であるため、学校によって教育環境に差が生じないよう、学校の過密さ加減（学校敷地面積/校区面積）はある程度均等な方が良い
- 校区を見直すことによって、教育活動に影響が出るほど著しく児童数が多く（あるいは少なく）ならないかどうか、検証する必要あり

# 第5回ワークショップでのご意見

- 第5回ワークショップでは、校区ごとにグループワークを行いました。
- 新設校と隣接する中小校区・萱野小校区・萱野東小校区は、現在の校区のうち、どこからを新設校の校区にするのがよいか話し合っていました。
- それ以外の校区は、校区を考える指標「学校敷地面積 / 校区面積」を各校均等に近づけるため、校区を広げたり狭めたりするとしたらどのような校区にするか話し合っていました。

# 新設校と分けたあとの中小校区案

- …現在の校区
- …変更案



バス通りを渡って中小に通っているエリアなので、新設校の校区とすることで通学の安全性が高まる

稲6丁目は比較的新しく住宅開発されたエリアなので新設校へ

船場西2丁目、3丁目は、中小・萱野小で校区が分断されているので、新設校の校区とすることで分断を解消

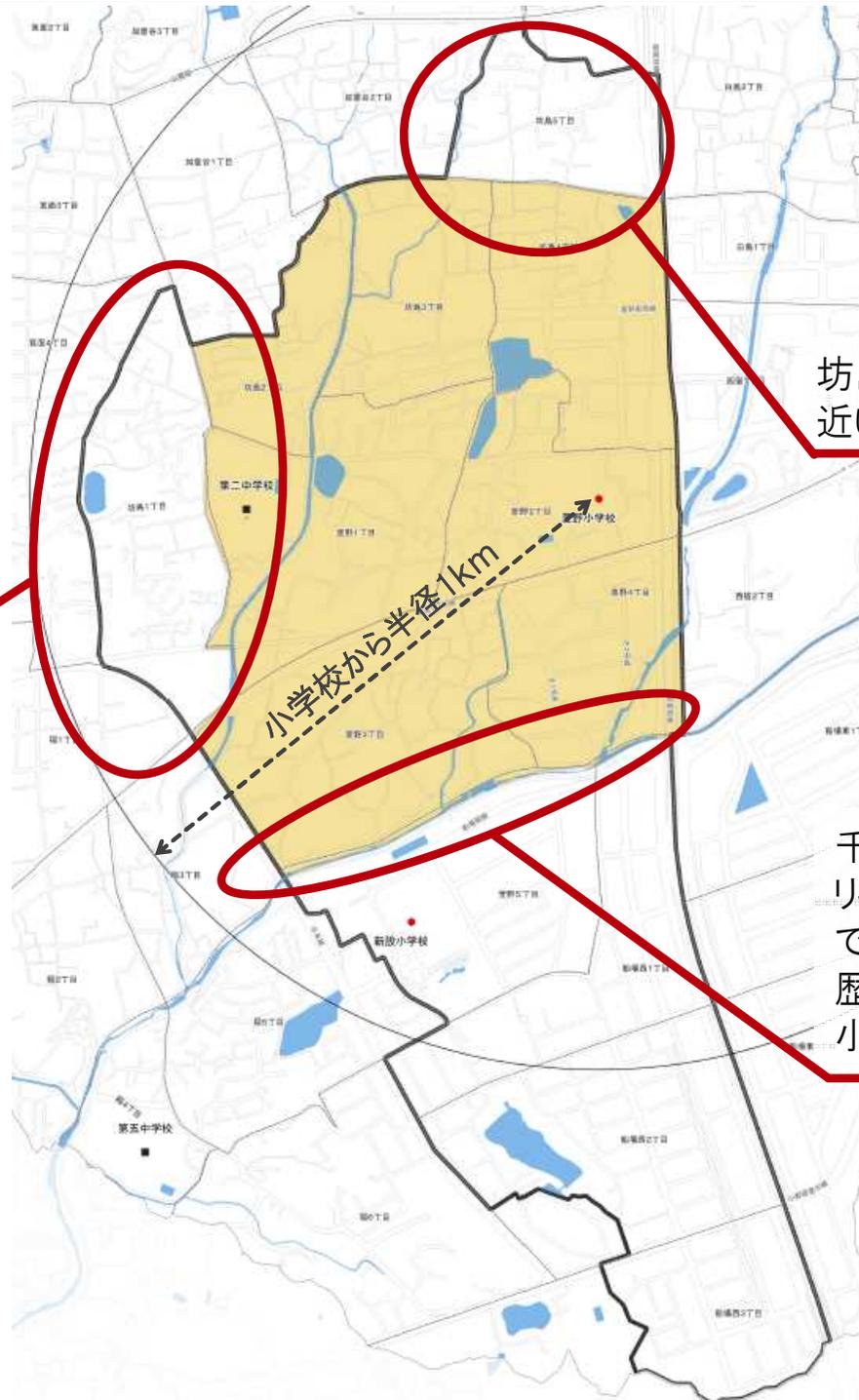
# 新設校と分けたあとの萱野小校区案

□ …現在の校区

■ …変更案

坊島1丁目は物理的に中小の方が近いので、中小校区への変更を検討してはどうか

坊島5丁目は物理的に萱野北小の方が近いので、萱野北小校区にしてはどうか

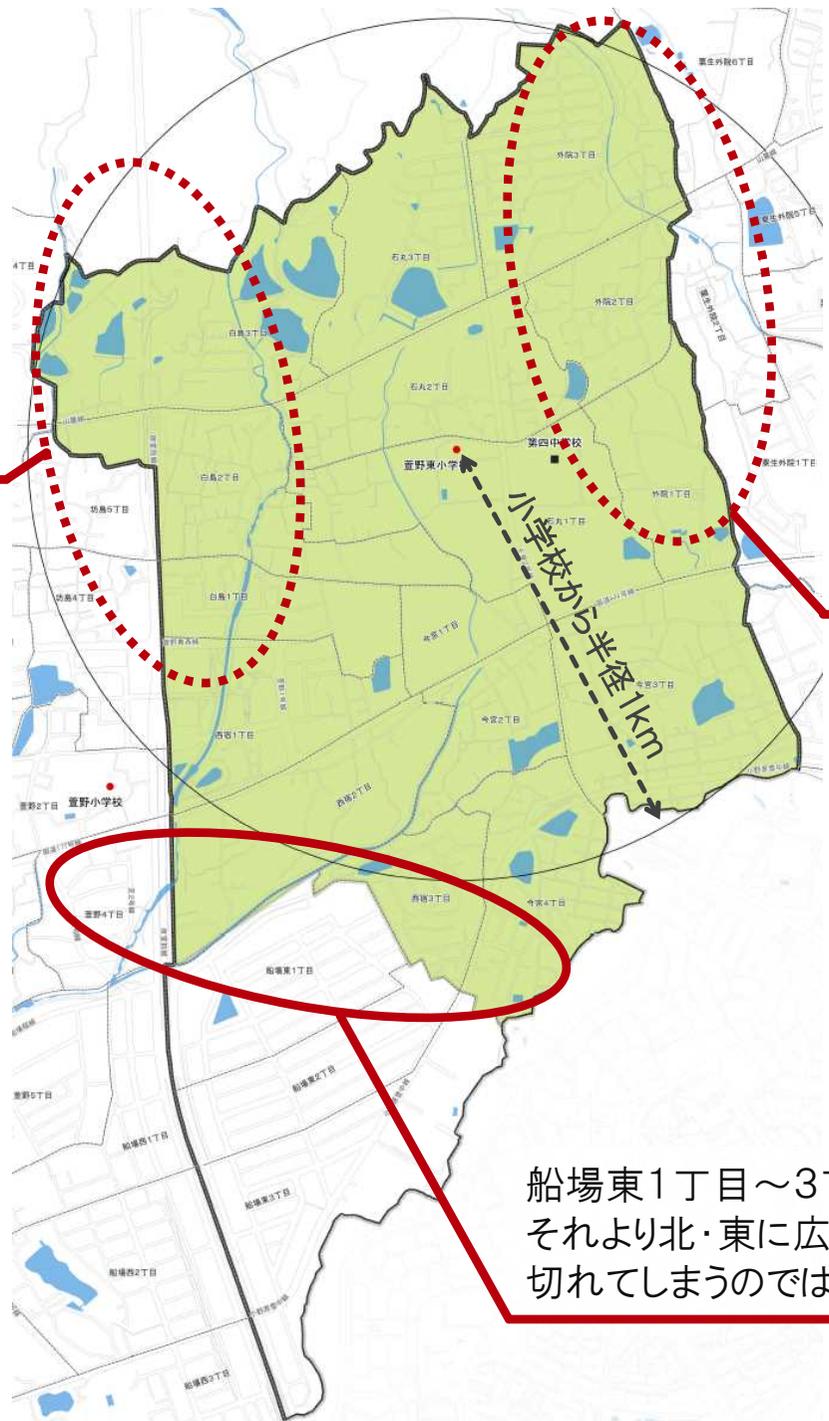


千里川より南で区切ると新設校の位置ギリギリになってしまい、北(国道171号線)で区切ると校区が小さくなりすぎるので、歴史的な経緯も踏まえ、千里川を萱野小と新設校の境界にしてはどうか

# 新設校と分けたあとの萱野東小校区案

- …現在の校区
- …変更案

白島地域のつながりを分断しないように西側の境界はそのままにしたい



萱野東小校区の過密さ解消のために校区面積を狭めるとしたら、外院地域を豊川北小・東小校区にしてはどうかとの意見もあった

船場東1丁目~3丁目を新設校の校区に。それより北・東に広げると、西宿や今宮の地域のつながりが切れてしまうのではないかと懸念がある

# 西南小学校(校区を広げる)



- …現在の校区
- …変更案

高低差があるので広げにくい

半町1丁目の境界で  
広げると、桜ヶ丘4丁目  
の子どもは西南小校区内を  
横切って南小に行くことになる

小学校から半径1km

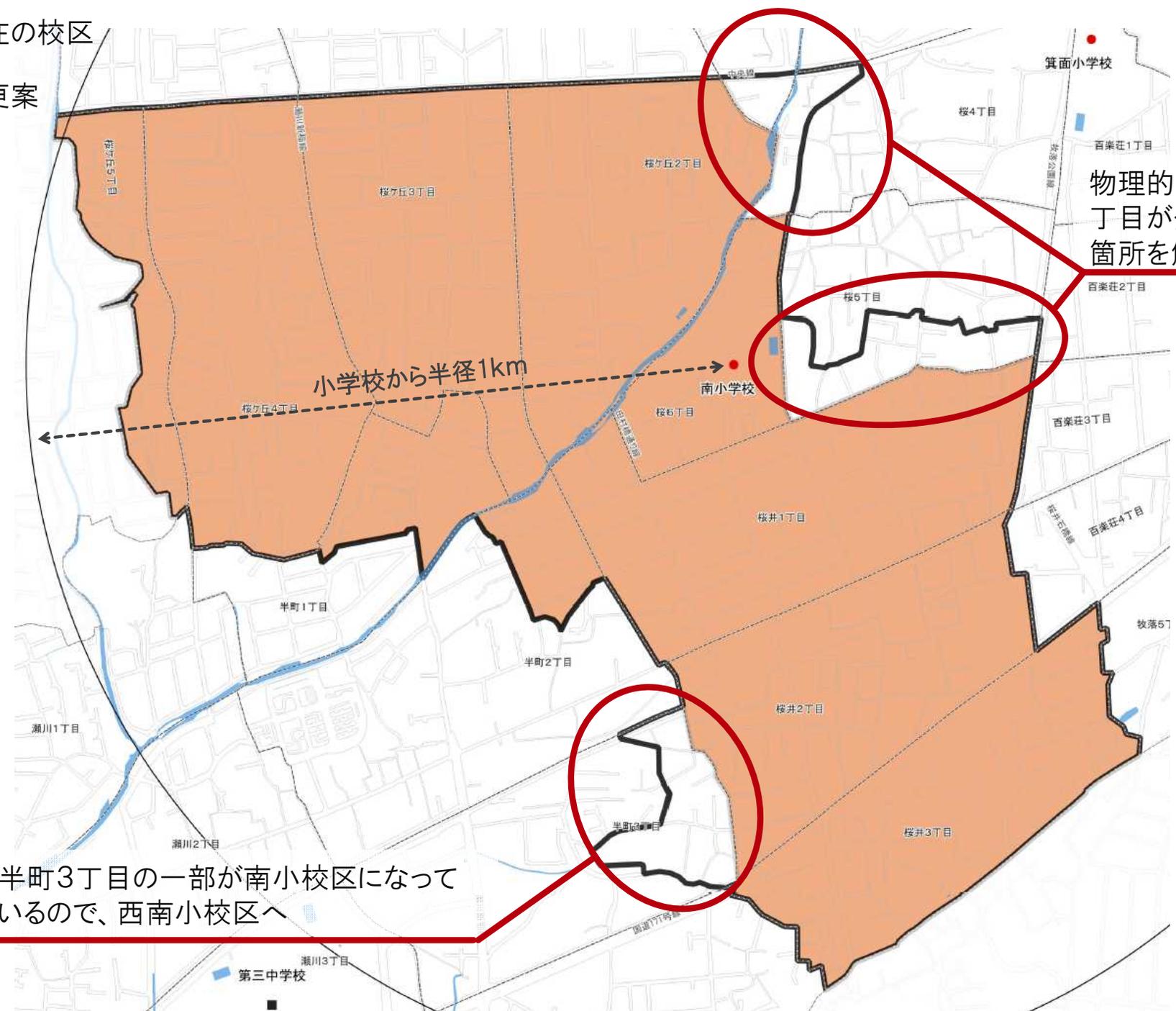
桜井3丁目を分断して  
しまうので、広げにくい

半町2丁目の分断を解消できる

半町3丁目の分断を解消できる。また、  
このエリアの子どもたちは踏切を渡って  
南小に通っているため、西南小校区に  
すれば通学の安全性が向上する

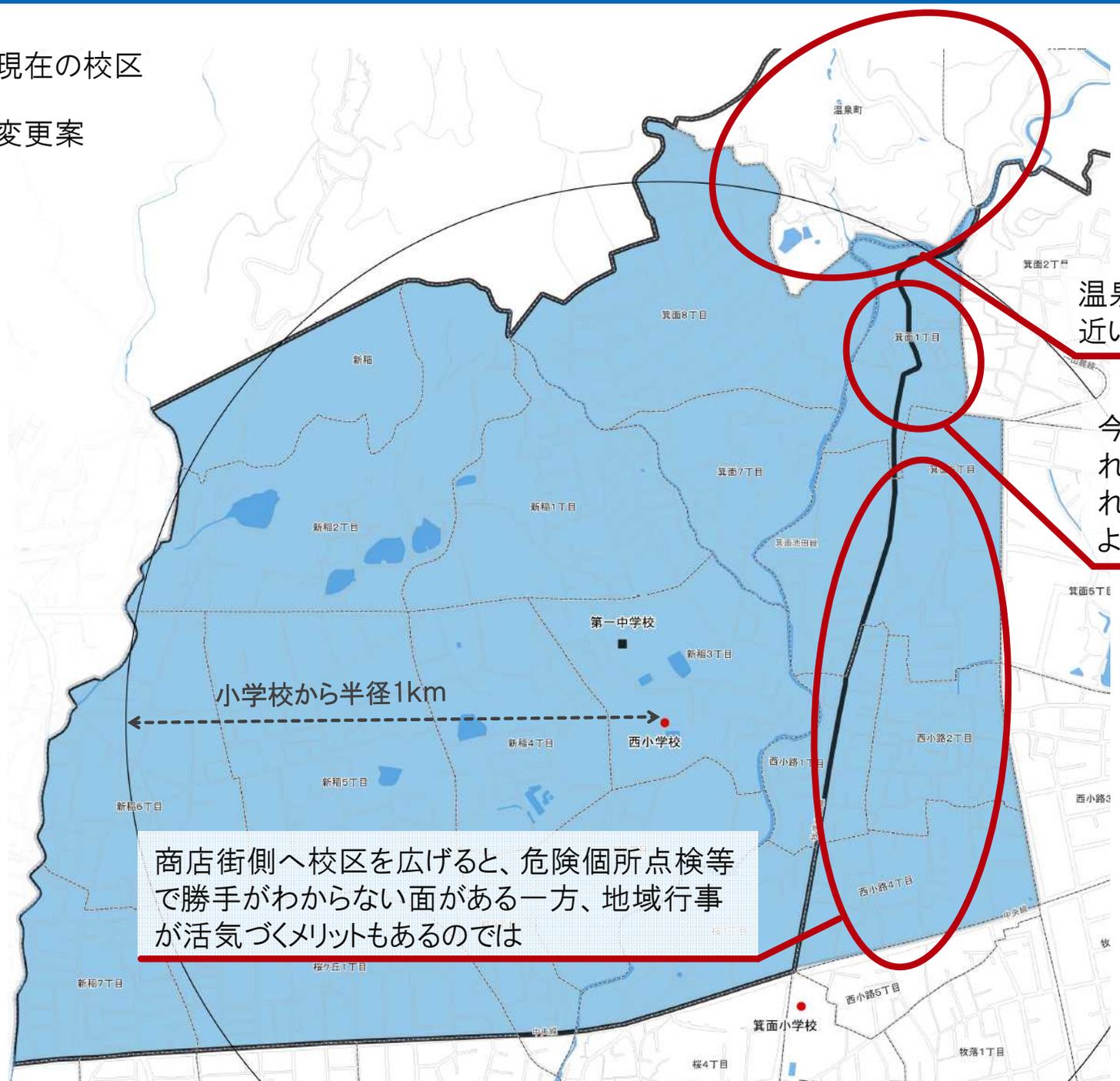
# 南小学校(校区を狭める)

-  …現在の校区
-  …変更案



# 西小学校(校区を広げる)

- …現在の校区
- …変更案



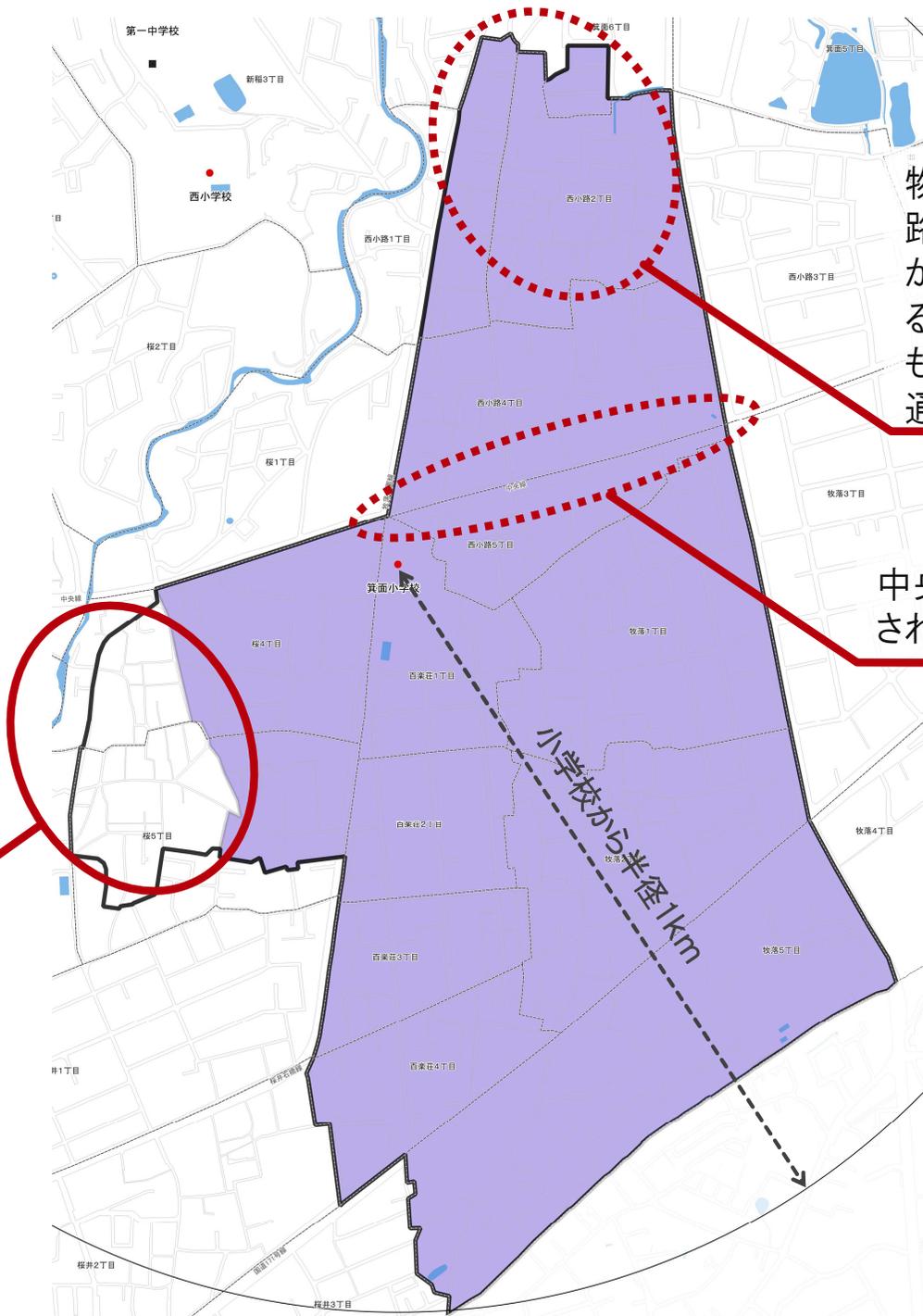
温泉町より北側は、物理的に近い北小校区へ

今は滝道で東西に校区が分かれているが、箕面1丁目に分かれないように校区を見直してもよいのでは

商店街側へ校区を広げると、危険箇所点検等で勝手がわからない面がある一方、地域行事が活気づくメリットもあるので

# 箕面小学校(校区を狭める)

- …現在の校区
- …変更案



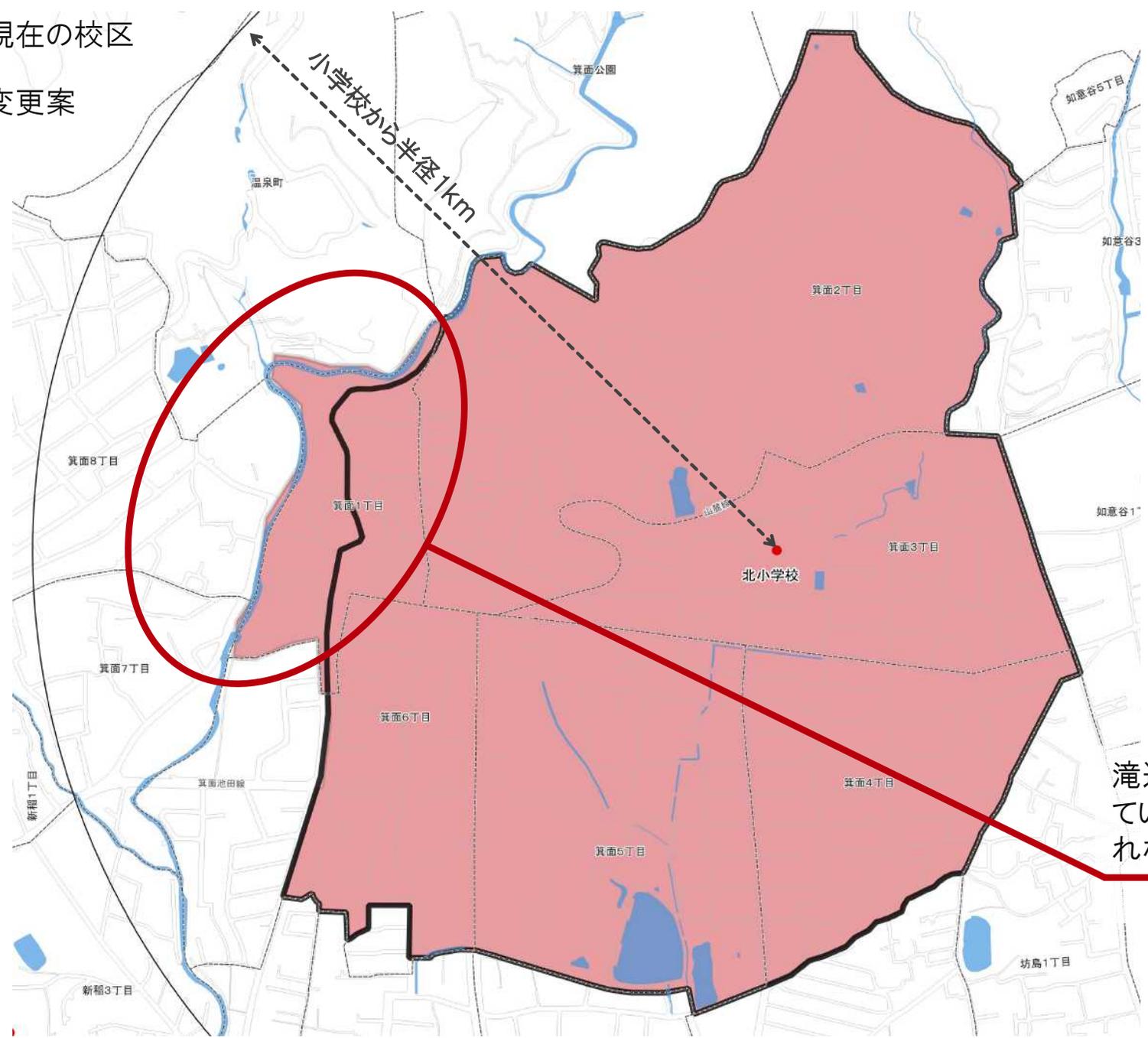
物理的に西小に近いが、通学で線路を渡るため危険。中小にも近いが、(現在の中学校区を前提にするならば)すぐそばに一中があるにも関わらず五中まで通うことになり、通学に不便ではないか

中央線で区切ると、西小路が分断される懸念がある

物理的に南小の方が近いので、近隣住民にとって身近な生活道路(箕面桜郵便局前)で校区を区切ってはどうか

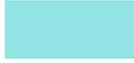
# 北小学校(校区を狭める)

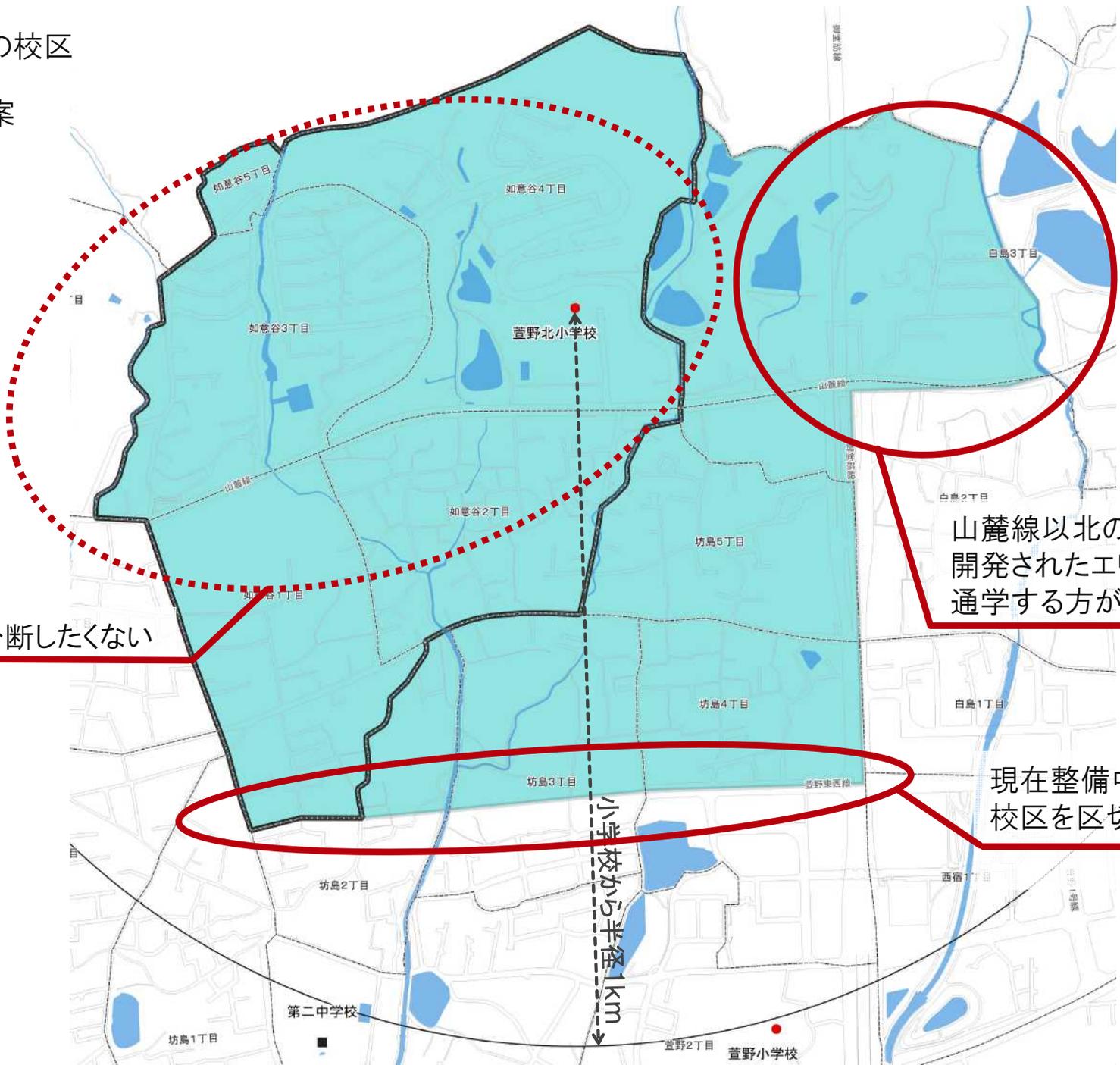
-  …現在の校区
-  …変更案



滝道で東西に校区が分かれているが、箕面1丁目に分かれない方がいいのでは

# 萱野北小学校(校区を広げる)

-  …現在の校区
-  …変更案



如意谷地域を分断したくない

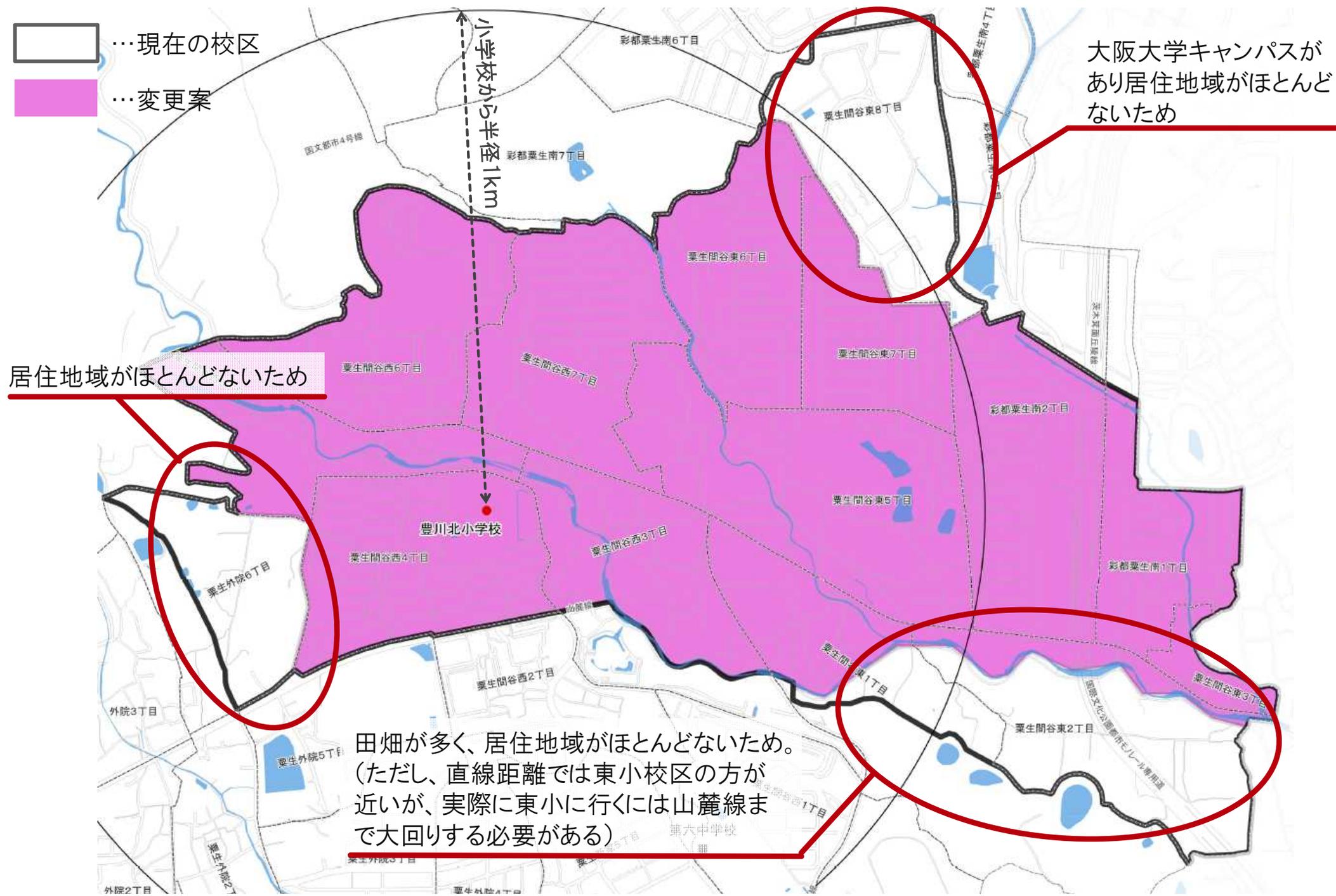
山麓線以北の比較的新しく住宅開発されたエリアは、萱野北小へ通学の方が安全ではないか

現在整備中の萱野東西線で校区を区切ってはどうか

小学校から半径1km

# 豊川北小学校(校区を狭める)

- …現在の校区
- …変更案



# 東小学校(校区を狭める)

…現在の校区

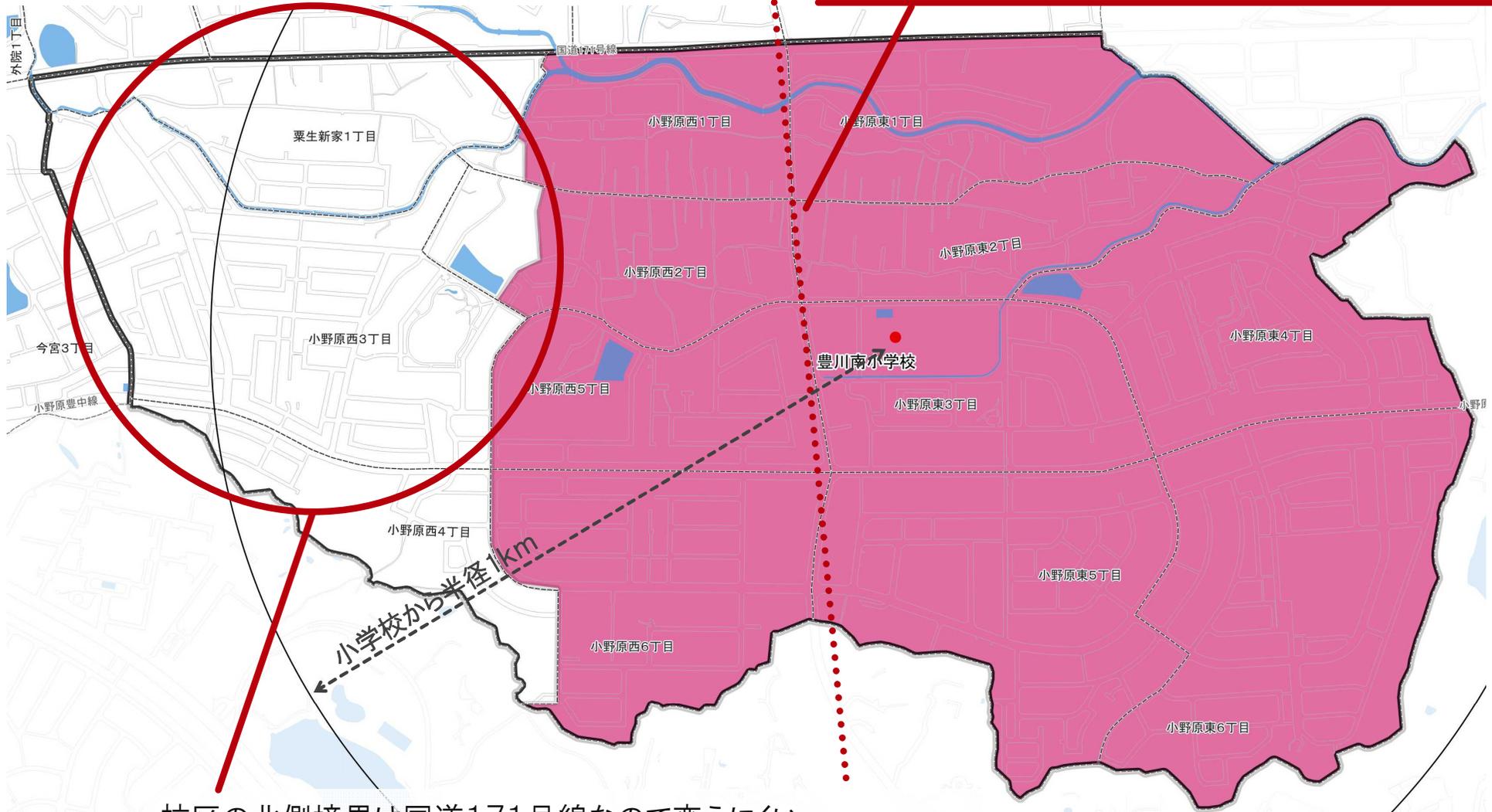
…変更案



# 豊川南小学校(校区を狭める)

-  …現在の校区
-  …変更案

小野原東の一部の地域では、第四中学校まで自転車通学している。小野原東地域は第六中学校に通うことにし、自転車通学を解消すればいいのではないか



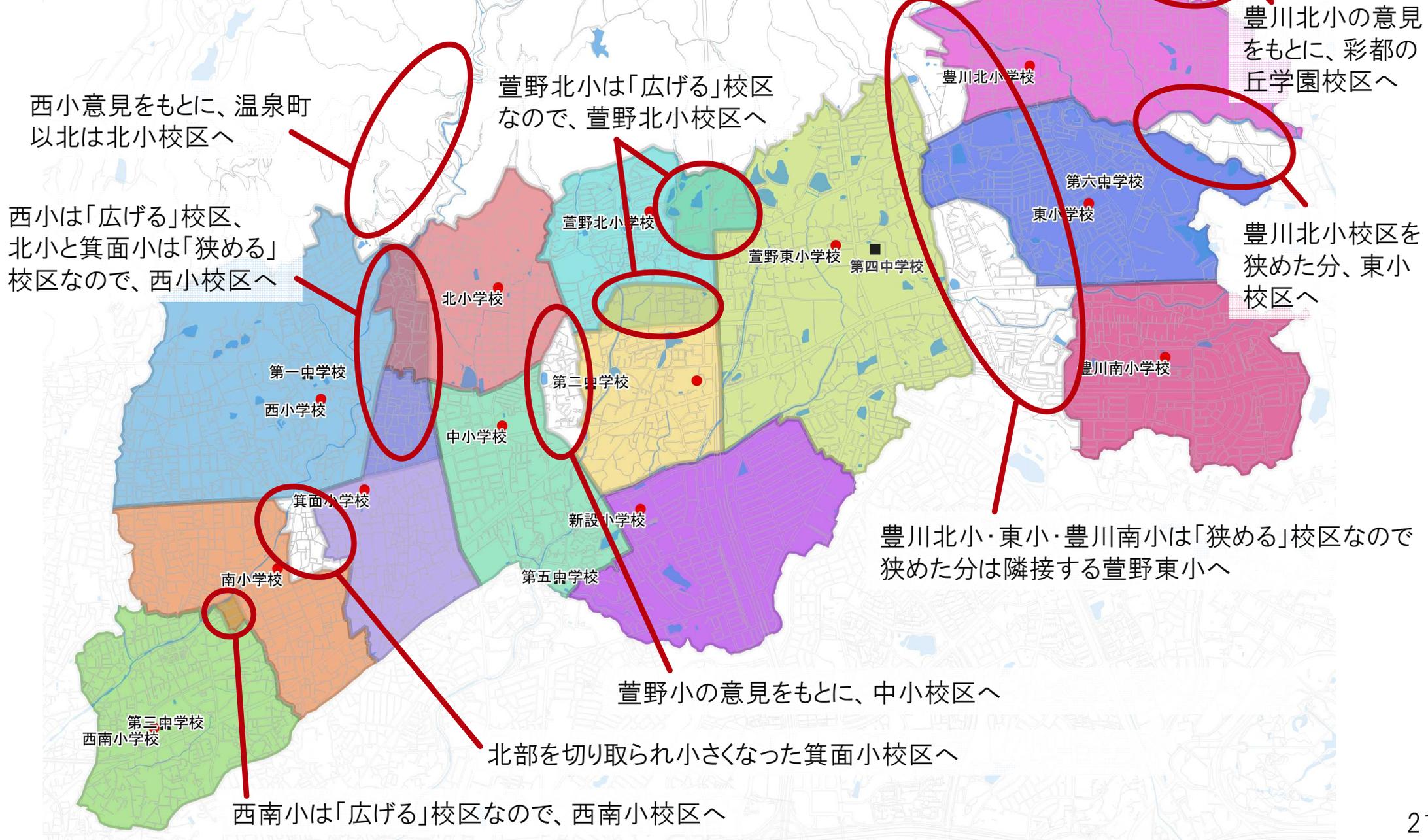
校区の北側境界は国道171号線なので変えにくい。  
校区を狭めるとすれば東に小さくする方が良いでしょう

# 第6回ワークショップの内容とご意見

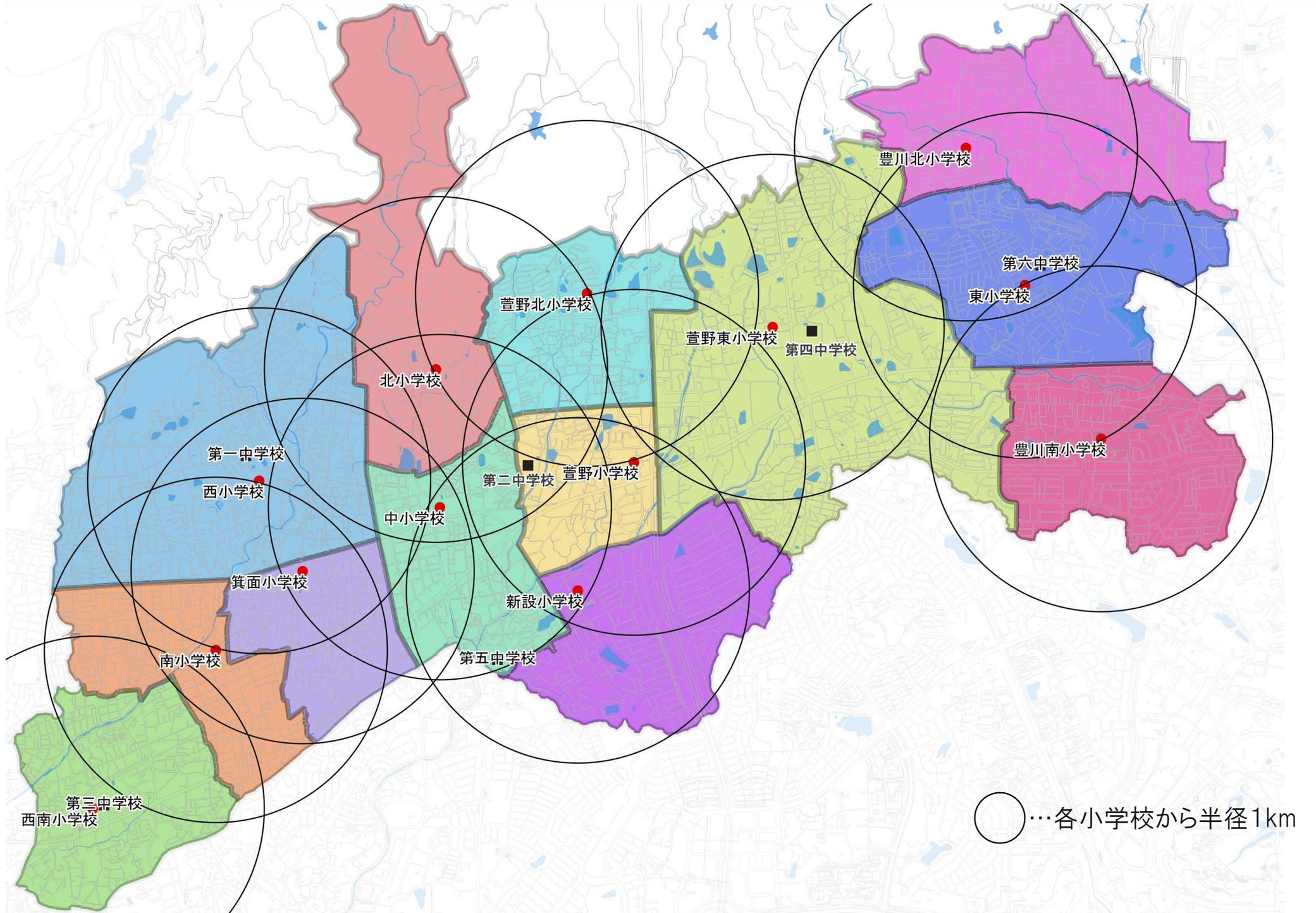
---

# 第5回ワークショップの各校区意見を重ね合わせた校区図

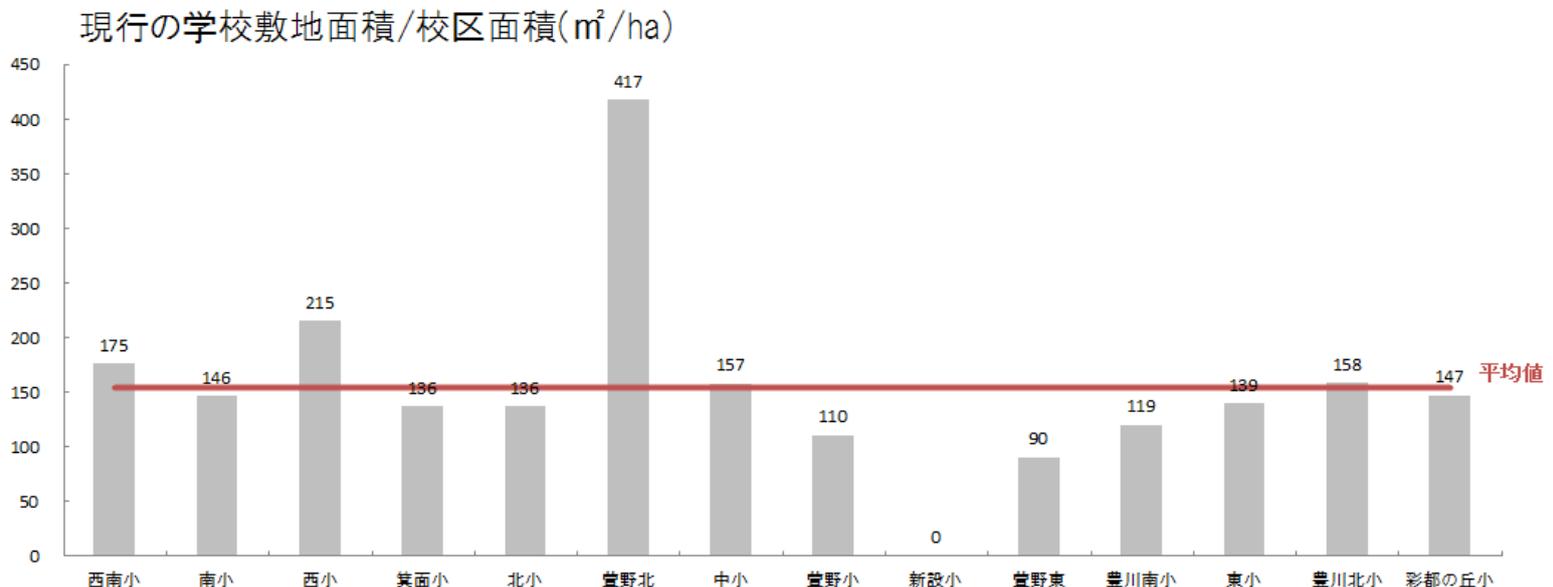
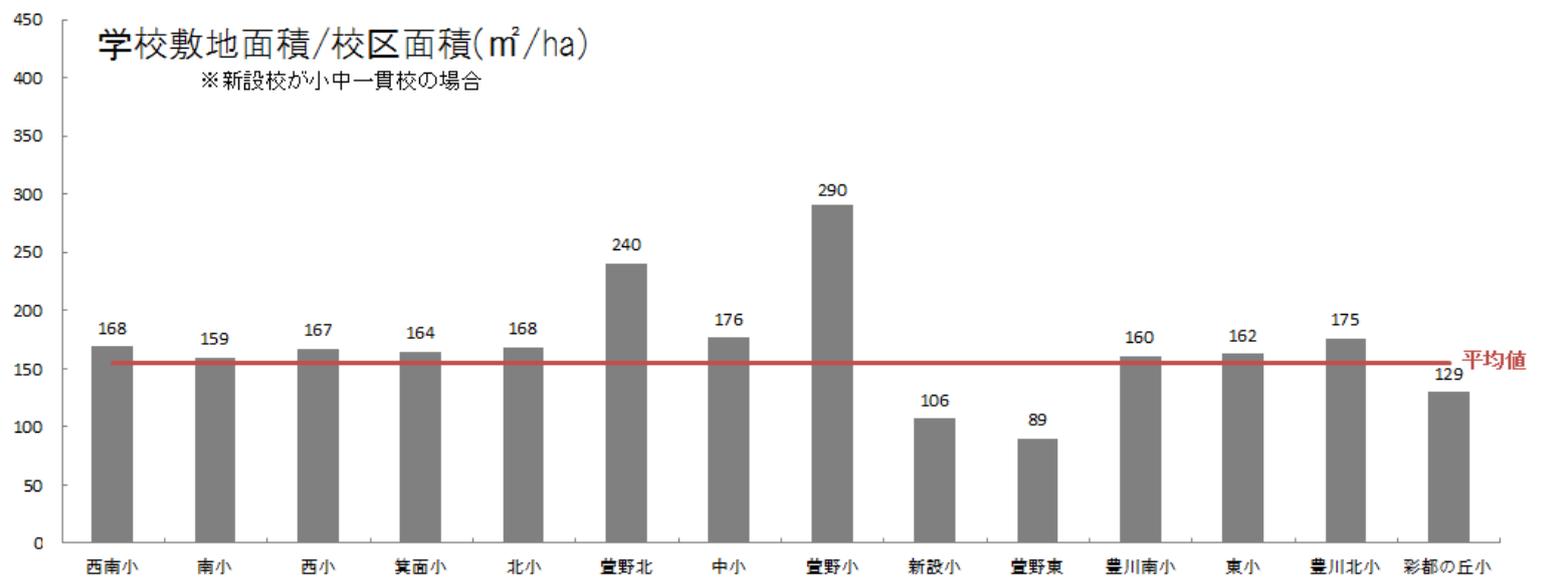
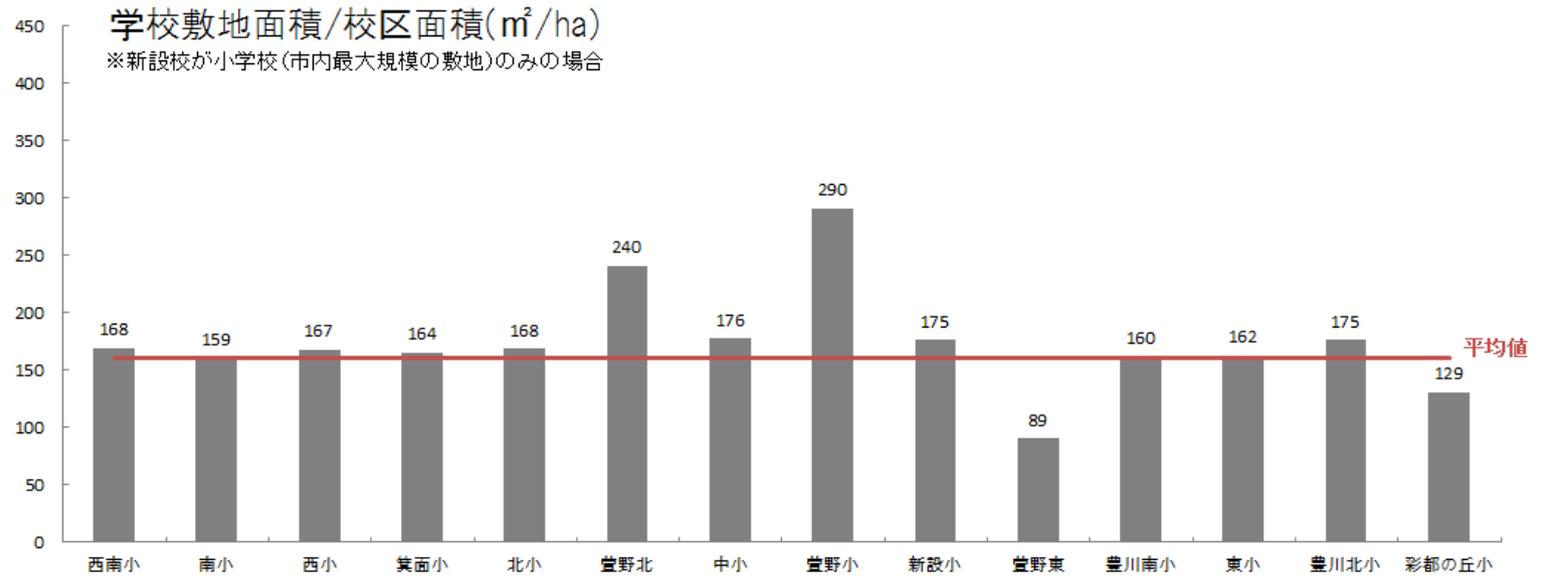
一部重なりや空白地があります。これらのエリアを、できるだけ各校の「広げる・狭める」考えに合うように、いずれかの校区に入れます。



# 重なりや空白地をなくした校区図

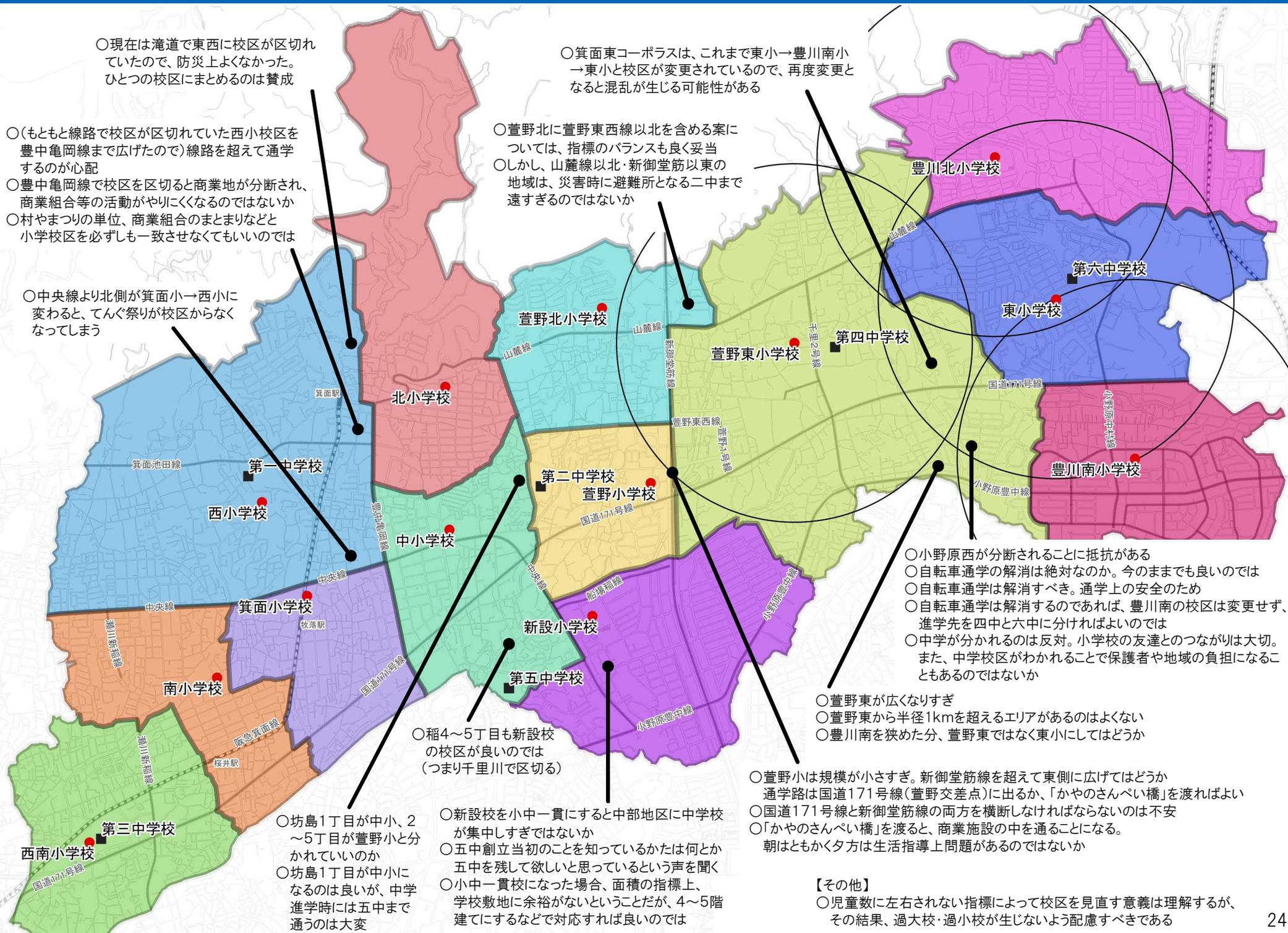


# 「学校敷地面積／校区面積」の状況



第6回ワークショップでは、校区図と指標の状況をもとに、感じたこと・わかったこと・疑問に思ったこと・今後検討すべき課題などを話し合いました。

# 第6回ワークショップでの意見概要



○現在は滝道で東西に校区が区切れていたのですが、防災上よくなかった。ひとつの校区にまとめるのは賛成

○(もともと線路で校区が区切れていた西小学校を豊中亀岡線まで広げたので)線路を超えて通学するのが心配  
 ○豊中亀岡線で校区を区切ると商業地が分断され、商業組合等の活動がやりにくくなるのではないかと  
 ○村やまつりの単位、商業組合のまとまりなどと小学校区を必ずしも一致させなくてもいいのでは

○箕面東コーポラスは、これまで東小→豊川南小→東小と校区が変更されているので、再度変更となると混乱が生じる可能性がある

○萱野北に萱野東西線以北を含める案については、指標のバランスも良く妥当  
 ○しかし、山麓線以北・新御堂筋以東の地域は、災害時に避難所となる二中まで遠すぎるのではないかと

○中央線より北側が箕面小→西小になると、てんぐ祭りが校区からなくなってしまう

○小野原西が分断されることに抵抗がある  
 ○自転車通学の解消は絶対なのか。今のままでも良いのでは  
 ○自転車通学は解消すべき。通学上の安全のため  
 ○自転車通学は解消するのであれば、豊川南の校区は変更せず、進学先を四中と六中に分ければよいのでは  
 ○中学が分かれるのは反対。小学校の友達とのつながりは大切。また、中学校区がわかれることで保護者や地域の負担になることもあるのではないかと

○萱野東が広くなりすぎ  
 ○萱野東から半径1kmを超えるエリアがあるのはよくない  
 ○豊川南を狭めた分、萱野東ではなく東小にしてはどうか

○稲4～5丁目も新設校の校区が良いのでは(つまり千里川で区切る)

○萱野小は規模が小さすぎ。新御堂筋線を超えて東側に広げてはどうか  
 通路は国道171号線(萱野交差点)に出るか、「かやのさんべい橋」を渡ればよい  
 ○国道171号線と新御堂筋線の両方を横断しなければならないのは不安  
 ○「かやのさんべい橋」を渡ると、商業施設の中を通ることになる。朝はともかく夕方は生活指導上問題があるのではないかと

○坊島1丁目が中小、2～5丁目萱野小と分かれていいのか  
 ○坊島1丁目が中小になるのは良いが、中学進学時には五中まで通うのは大変

○新設校を小中一貫にすると中部地区に中学校が集中しすぎではないか  
 ○五中創立当初のことを知っているかたは何か五中を残して欲しいと思っているという声を聞く  
 ○小中一貫校になった場合、面積の指標上、学校敷地に余裕がないということだが、4～5階建てにするなどで対応すれば良いのでは

【その他】  
 ○児童数に左右されない指標によって校区を見直す意義は理解するが、その結果、過大校・過小校が生じないよう配慮すべきである

# 【参考】現在の校区図

